

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 10 月 13 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 18名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3890200037
事業所名	グループホームステラ
(ユニット名)	さくら
記入者(管理者)	
氏名	吉井 恵美子
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 29 日

<p>【事業所理念】</p> <p>凡事徹底</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>介護記録について 利用者の様子・気づき・アイデアについての記録が十分でない。 一「もう少し記録に落とす」を目標とした。 一やはり現場の介護におもきが置かれ記録は十分ではないが、申し送りなどはきちんとできている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は周辺に緑が多く、自然豊かな環境の中に立地している。ホーム長と管理者を中心に、利用者に寄り添う支援を最優先にして、利用者主体のケアを職員が一丸となって実践している。事業所では、利用者の生活リズムに合わせて過ごせるよう、朝遅く起きる習慣のある利用者には朝食を確保してゆっくと希望の時間帯に食べてもらったり、好きな時に入浴してもらったりするなど、柔軟に対応している。現在は新型コロナウイルス感染症対策のため、家族との面会は窓越しで行ったり、タブレット端末を活用したりするなどの工夫している。コロナ禍においても、日課となっている散歩や薬師堂の参拝、ドライブなども継続し、利用者が日々穏やかに楽しく過ごせるよう支援している。訪問調査日には、自動車の往来も少ない安全な散歩道を、のんびりと利用者と一緒に楽しみながら歩いている様子を見ることができた。また、職員同士コミュニケーションがしっかりと取れており、お互いに注意し合いながら協力し合う風土ができている。</p>
----------------------------	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	普段の生活の中で折に触れ会話などから思いを把握するようにしている。	◎	/	◎	職員は利用者一人ひとりに寄り添い、しっかりと話を聞くことができている。日頃から、職員は利用者の意向が把握できることを意識して支援している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	家族・友人などからの情報などを、日々の申し送りや、毎月のミーティングなどで検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面談や面会時には世間話などをつつ、思いを伺い話している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	センター方式などを利用し、個別カンファレンスなどを記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	いつも本人の思いを確認する努力をしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	面会時には世間話などをつつ、探るようしている。センター方式などから把握している。	/	/	◎	職員は利用者や家族のほか、面会に訪れた友人等から、これまでの暮らしや若い頃の話などを聞き取るようにしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	折々に、申し送りノートに一覧を作ったり、日々の会話の中で把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	申し送りや普段の会話のなかで把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	◎	「なぜ？」をいつも考えるようにしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	スタッフは一人一人の過ごし方を把握しており、日々の変化についても日報や申し送りにて把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	カンファレンス時には独自のアセスメントシートにより「私の願いや支援してほしいこと」を検討している。その他朝礼・ミーティングなどで検討している。	/	/	◎	事業所では各利用者の担当職員を決め、日々の申し送りや各ユニットのミーティングの際には担当職員が中心となり、利用者一人ひとりの情報共有や検討をしている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	本人・家族様などからの情報をふまえて検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	独自のアセスメントシートを活用しカンファレンスを行い課題を抽出している	/	/	/	

愛媛県グループホームステラ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	家族様の意向が主になることもあるが、日頃から本人の思いや意向を探りそれを反映するようにしている。	/	/	/	各ユニットで実施するミーティングでは、介護計画についても検討している。各利用者の担当職員から、利用者の様子やサービスの実施状況を報告を聞いて検討し、家族の意向を盛り込んで、計画作成担当者が介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	折々、一堂に会することはなかなか難しいが、日々の会話や面会や電話連絡などの際ご意見を伺ったりしたことをもとに独自のアセスメントシートに落とし込みカンファレンスを行っている。	◎	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	慣れ親しんだ暮らしを提供する努力はのは当たり前なので特に取り上げてはいない。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族様には出来る範囲での協力をお願いしている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	スタッフ皆で話し合い計画を作成しているので、理解できている。	/	/	○	職員は、利用者一人ひとりの介護計画の内容を十分に把握しており、計画に沿った支援ができています。利用者に寄り添う支援を重視しており、記録は必要最低限の記載となっているが、別途に各利用者の個別ファイルが用意され、担当職員等が日々の利用者の暮らしぶりや様子が分かるように記載されている。また、職員の気づきについては、申し送りノートなどへ記録を残し、活用されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	都度都度の記録し職員間で共有は出来ている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	記録できるような様式にはなっている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	介護記録に落とし込みを行い、情報を共有している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	行っている。	/	/	○	利用者の状態に大きな変化がない場合は、6か月に1回介護計画の見直しをしている。変化のある場合には、その都度職員で話し合って検討を重ね、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	定時を待たず、即時対応している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化に合わせて、随時見直しをしている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	定時の会議は開催しているが、緊急案件については出勤のメンバーなどで対応を検討している。	/	/	◎	各ユニットのミーティング内容は会議録にまとめられ、職員に回覧して共有できている。重要事項については申し送りノートにも記載され、職員は確認後にサインをするなど、伝達漏れのないようにしている。また、管理者は口頭でも伝達している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	しっかり意見交換のできる雰囲気づくりを行っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	工夫している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議記録・申送り(ノート・口頭)で伝える。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	ミーティング・申送りノート・月間スケジュールの活用	/	/	◎	伝達事項は申し送りノートに記載されている。職員は、出勤後にまず申し送りノートを確認することとなっている。情報共有に漏れのないよう管理者が、日々口頭でも職員に声をかけて留意している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	ミーティング・申送りノート・月間スケジュールの活用	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	可能な方には向うが、意思を表出できない方は想像でし努力している。。	/	/	/	利用者の状況に合わせて、可能な範囲で利用者を選択してもらえる場面を作っている。管理者等は、職員に利用者が選択した判断を尊重した支援ができることを徹底している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	できる限り行っている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	できる限り行っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	できる限りそれぞれのペースを大事にしている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	出来るだけそばに寄り添い引き出すよう努力してる。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	できるだけつかむよう努力している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	いつも「尊厳」とはということを意識しつつ向き合っている。	/	◎	◎	入職後の内部研修で、管理者等は、新入職員に利用者を敬う姿勢やプライバシーへの配慮について、しっかりと指導している。日々の支援の中でも、利用者への言葉かけや居室への出入りなど、先輩職員が手本となり、利用者に配慮された支援ができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	◎	配慮している。研修も行い接遇を重視したケアを行っている。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	配慮しながら介助を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	声かけをして入室している。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	理解している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	家事仕事などをして頂いたりする際などいろいろな場面でいろいろ、教えていただいております。	/	/	/	利用者同士のトラブルは、職員が間に入ったり、利用者に場所を移動して気分転換してもらったりするなど、様々な工夫をして対応している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	よく理解しており、日々考えながら対応している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	細かなことまでしっかり目配りし、取り上げ、話し合うことができています。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	どのスタッフも当座をうまく対応するすべを持っており、その後皆で解消するよう努めることができている。	/	/	/	

愛媛県グループホームステラ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	センター方式や本人や家族様、面会の方などにおうかがいしたりしてある程度は把握できている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	センター方式や本人や家族様、面会の方などにおうかがいしたりしてある程度は把握できている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	会いに出かけることは少ないが、知人友人の面会やお手紙はよくある。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	気持ちの良い挨拶、空気づくりに努めている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	時期・気候にもよることができるだけ屋外に出る時間を確保するようにしている。	○	○	◎	現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以前から比べると買い物などの外出できる機会は減っているが、毎日事業所周辺を散歩したり、日課となっている近くの薬師堂へ参拝したりできるよう、職員は継続した支援をしている。利用者はドライブ時に車窓からの景色を楽しんだり、家族と一緒に外出したりすることも多い。また、重度の利用者も一緒に車いすで散歩するなど、職員は楽しみながら外出できるように取り組んでいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	外出はしているが、コロナの影響のためボランティアなどの協力は得れてない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	車椅子利用の方も散歩などされている。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族や地域の協力は得てないが外出の支援をしている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	「なぜ？」をいつも考えるようにしている。	/	/	/	ほとんどの利用者は積極的に洗濯物を干したり、畳んだりするなど、一緒にできることを手伝っている。特に馴染みのある洗濯物などの家事の手伝いは、利用者に人気がある。階段には両側に手すりを取り付けられており、リハビリを兼ねて階段の昇り降りをするを日課としている利用者もいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	家事仕事・レク・口腔ケアなどで維持・向上を図っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	職員はいつも「今、できる事・できない事」を把握して支援している。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	センター方式や日々の会話の中で把握している。	/	/	/	事業所では基本的に、午前中に職員主導でレクリエーションを行い、午後に利用者が自由に過ごすことが日課となっている。歌や将棋、風船バレーなど、利用者の身体状況や好みにも配慮しながら、職員が午前中のレクリエーションを考え、楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	日々の生活の中で楽しみを感じられるよう工夫している。	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	◎	通常は地域にも出かけている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	好みを把握しており、基本的には本人に選んでもらっている。				職員は利用者を選択肢を示して着替える服を選んでもらったり、利用者の好みに配慮したりしながら、身だしなみやおしゃれの支援をしている。重度の利用者にも、可能な限り好みを尊重できるよう、以前利用者自身で選択できていた頃の様子を思い出しながら、職員同士で相談して選択している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	髪型については家族様の意見も反映されている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	好みであらうものを選んでいる。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	日々の予定を意識して一緒に選んだりしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	いつも素敵にられるよう気配りしている。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	馴染みのところをお勧めするが、家族様あまり望まれない。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	以前から好んでいた服装を着れるよう支援している。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	ミーティングやその都度理解を図っている。				朝食と昼食は法人の栄養士が作成した献立を、近隣にある母体法人の施設で調理されたものが選ばれ、利用者提供している。夕食は利用者と一緒に買い出しに行ったり、調理を手伝ったりして夕食を食べることは、利用者にとって楽しみの一つになっている。食器は事業所の陶器の物を使用し、箸などは利用者の使い勝手や好みで、自由に持ってきてもらい使用している。朝食と昼食は栄養士が栄養面などを考えた食事となっているため、事業所内で調理する夕食はバランスにはこだわらず、職員は利用者が好みのメニューなどを楽しく食べられることを重視している。現在は新型コロナウイルス感染症対策のため、一時的に職員と一緒に食事を摂っていないが、利用者のそばに寄り添いながら支援している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	通常は買い物に出かけ、下ごしらえ、後片付けなどは積極的にかかわっていただいている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	通常は買い物を含め、できることをしていただくことで、達成感につながっていると思う。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	アセスメント等で把握できている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	アレルギーでなくとも嫌いなものはできるだけ提供せず、おやつなどもみな同じではなく、好みのものなども提供している。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	病院での指示以外は安易にミキサー食などにはしていない。歯がないなどの方には状況にあった食事を提供している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	馴染みのものをお持ちいただくようお願いしている。白内障の方には恋色のお茶碗だったり、使いやすいもので提供している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	△	コロナ禍であり、一緒に食事はしていない。その人に合った食事摂取ができるよう声掛け・介助している。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	ゆっくり会話をしながら食事をすすめている。		◎	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	好みのものなどを提供し水分摂取量を確保しているが、カロリーなどについてはそれほど気にしていない。(好きなものを食べさせてほしい、という思いの家族様がほとんどである。)				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	かなり工夫している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	朝食・昼食については本部の栄養士が献立をたて、調理したものが届いている。夕食については(楽しみの食事)ととらえている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	適宜の消毒など、安全管理に努めている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	必要であれば仕上げ磨きをしている。 適宜歯科往診を受けている。	/	/	/	一日3回の食後には、職員は利用者へ声をかけ歯磨きをしている。介助が必要な利用者には、職員が支援している。痛みや腫れがあれば、職員は利用者の口腔内の様子を確認し、必要に応じて歯科医の受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	入居当初のアセスメントに続き、その都度把握している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診のあった方は医師からその方に合ったケアを教えてもらっている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後、声掛け・介助している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後声かけ・介助にて清潔の支援をしている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	不具合のある時は歯科医の受を勧めている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	よく理解しており、安易にパッド・紙パンツを使わないよう支援している。	/	/	/	日中に利用者は布パンツで過ごし、職員はトイレで排泄できることを基本として支援している。夜間のみ、紙パンツやおむつを使用している利用者もいるが、職員が根気よく排泄支援していくことで、おむつから紙パンツに移行できたり、紙パンツから布パンツに移行してきた事例もある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	よく理解しており、食事内容や形態・水分・運動など支援している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表にて把握し・排泄の兆候(特定の動作など)も把握して対応している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	トイレを基本とし、その人・その時の状態に合わせた支援をしている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	何事にも「なぜ？」を意識しながら、改善にむけ取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表などを利用し、個々に合わせたタイミングで声かけ等を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	オムツに関しては本人の好みは優先されていないが、他は相談しながら行っている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	日中は布パンツ、夜間不安な方には夜間のみ紙パンツを使用するなど、使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	食事内容や形態・水分・運動・マッサージ・入浴など支援している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	リスクが高い、スタッフの少ない時間帯はできないが、その他は利用者様の意向に沿った支援をしている。入浴の長さ、回数、温度については体調、バイタルを勘案してできるだけ、好むようにしていただいている。	◎	/	◎	事業所の浴室は広く、職員が介助しやすくなっている。浴室や脱衣場などには床暖房やエアコンも完備され、快適な環境が整備されている。利用者は入りたい時に入浴することができ、職員は曜日や時間帯は決めず、可能な限り入浴してもらえる体制を整え、対応している。入浴が苦手な利用者には、無理強いはいしていないものの、利用者の清潔面も考え、平均すると週3回以上入浴することができている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	介助スタッフも希望に合わせている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	普段車椅子使用の方も安心して不安なく浴槽に入っていただける技術をもって対応している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	声かけの工夫をし、無理強いせず、納得して気持ちよく入浴できるようにしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタル測定・前夜の就寝状況当日の様子他勘案し見極めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームステラ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	日々の申送り、睡眠チェック表にて把握している。	/	/	/	眠れない日には職員と一緒にリビングでのんびり過ごしてもらい、利用者のリズムに合わせて自由に過ごしてもらっている。事業所では夜に寝るべきと決めつけず、職員は利用者の体調や気分に合わせて支援できるような心がけている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の活動や光を浴びる事、軽い昼寝など工夫している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	スタッフ間・家族様・医師とも情報共有しできる薬剤に頼らないように支援している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	好きな時間に休息がとれるよう声掛けなどしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	希望される時は電話し、かかってきたときは本人様にも話をされるよう支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	決めつけず、支援している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	電話を拒むような場面はない。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	返信の手紙であったり、届いた旨の連絡などをしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	理解を促しており、協力してくださっている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	よく理解できている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	通常は出かける機会を設けている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	特別働きかけは行っていないが、最近はどこでも認知症の理解があり、気兼ねなく買い物出来ている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	希望される方は持っている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	話している。、皆「本人のいいように」とのこと。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預り金規程などが用意されているが、殆んど利用はない。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	何事もできるだけ柔軟に対応している。	◎	/	○	事業所では、利用者の起床や食事の時間など決めてしまうのではなく、利用者の生活リズムに合わせて合わせるようにしており、職員は柔軟に対応できている。朝起きるのがゆっくりな利用者には、職員が朝食を取り置き、食べたい時間帯に食べられるよう支援している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	フェンスや門扉などはなく、日常から近所の方々も施設の敷地をとっている。	◎	◎	◎	家庭的な造りの玄関先にはベンチが置かれ、利用者等は自由に休憩できるようにになっている。玄関は明るく、出入りしやすい雰囲気となっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	外部の方からは「家庭的・普通の家みたい」と言われることが多い。	◎	◎	◎	共用空間はきちんと整頓され、掃除が行き届いている。廊下は広々としており、リビングは明るい。事業所内には利用者手作りの作品を飾ったり、生花を活けたりするなど、利用者や来訪者は、季節を感じるができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	掃除は毎日及び適宜行っている。音・光・臭いについてはその都度対応している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の行事や季節の食事、話題を提供している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	リビングでの席などは決めてしまわず、その時々で好きな所で過ごしている。廊下にも椅子を置いて好みに過ごしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	直接見えない工夫がしてある。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	お仏壇やソファ、机、枕など馴染みのもの、使い慣れたものを持ち込まれている。	◎	/	◎	居室の廊下側には障子の窓があり、とても家庭的で温かい雰囲気になっている。居室には、馴染みの物などを持ち込みことができ、仏壇や位牌、自宅で使用していた棚やクッションなどを持ってきている利用者もいる。利用者の居心地の良い空間となるよう工夫している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	階段も両手で手すりを使用でき、フロアも各所に手すりが配置されている。エレベータも設置されている。浴室も車椅子使用の方(立位のとれない方)も浴槽に入り、入浴を楽しめるよう工夫されている。	/	/	◎	手すりなど、職員は利用者にとって必要性が感じられる場所にはすぐに設置してもらい、利用者が安全に自分で移動などができるようにしている。トイレには便所と大きく表記し、利用者が迷うことのないよう工夫されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	異食のある方の手の届くところには異食に繋がるようなものは置かない。などその都度検討工夫している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	裁縫道具などリスクの高いものは認知症の状態に合わせいつも手の届くところには置いてない方もいるが、新聞や趣味の雑誌など大抵の生活雑貨は目につきやすいところに置かれている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	充分理解しているが、スタッフがいない外部からの不審者侵入予防の為、施設の玄関は内鍵がかかっている。(利用者様は安易にあげることができる。)	x	x	○	防犯のため玄関は施錠しているが、内側からは自由に鍵を開けて、外へ出ることができる。ユニットの出入口など建物内はすべて施錠しておらず、利用者は自由に行き来することができる。鍵をかけることの弊害について、職員は理解している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	鍵を掛けてもいつでも自由に外に出ることができる。自由の大切さ・安全確保に対し入居時にはご理解いただけるよう話をしている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	x	日中玄関に鍵を掛けることは極普通なこととそれにより心理的圧迫をもたらせているとは考えられない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居以前については本人・家族様のわかる範囲での情報となるが職員はしっかり把握できている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	介護記録以外でも日報・個別ケアチェック表にてわかりやすく記録されている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	協力病院やかかりつけ医ともいつでも連絡できる体制ができている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	それぞれ希望する医療機関を受診している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人・家族の希望の病院を受診している。受診時には要約を準備手渡している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	それぞれ受診結果を共有できるようお互い報告し合っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際にはサマリーを作成し情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	適宜病院の相談員とも連絡をとり、面会にも行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	できている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	介護員のそれなりの知識を持っており、週一回の本部看護師に的確に伝えることができている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医療機関にはいつでも連絡相談できる。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	介護職員もそれなりの医療知識もあり良好な医療との連携もとれている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	十分理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	チェック表や二人での確認などで防ぐ努力をしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日々申送り・話し合いが出来ている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	日頃かかわりの深い介護職からの情報を適宜家族・医療に情報提供している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時・状態の変化に応じ面談し、話し合いを行っている。	/	/	/	終末期の過ごし方や事業所での看取りについて、入居時に利用者や家族に説明するほか、状態の変化などがあつた場合には、主治医も交えて家族ともよく相談できる場を持っている。多くの家族は利用者が可能な限り事業所で過ごすことを希望されるものの、状態の変化や終末期には病院等に入院されている。事業所の近くには、24時間体制で訪問診療を行ってくれる医療機関がないこともあり、管理者は事業所での看取り支援は難しいと考えている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	その時期には関係者で話あっている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期の対応の実績がないがその時に応じ見極めを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居時には説明・同意を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	都度都度、医療・家族様と話し合いを行いながら進めている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	ゆっくり時間をとって話をしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	外部・施設内の研修にて学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそつた対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	季節性の物に関しては流行の前に改めた研修をしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	管理者は最新情報を入手しスタッフに周知している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	管理者は最新情報を入手しスタッフに周知している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員・来訪者は施設に入るときには検温・手洗いをしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	施設内のことも手伝って頂く事もある。	/	/	/	日頃から、職員は家族に利用者の様子を動画で撮影してメールで送信したり、写真を多く撮って郵送したりするなど、利用者の様子を丁寧に伝えている。法人の秋祭りには多くの家族が参加されるほか、事業所でのお寿司づくりや外出のイベントの際にも、家族に参加・協力を得ることができている。家族には利用者の様子などの報告は適切にできているが、事業所の新入職員の紹介など、事業所の運営上の事柄などの報告が十分には伝わっていないと感じられたため、事業所として現在送付している便りへの掲載を活用するなど、より効果的な伝達方法を検討し、家族に理解が得られる取組みをを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	通常はご家族と一緒に食事をとったりいつでも気軽に園内で過ごせるよう工夫している。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	一緒に散歩に行ったり、花を植えて下さったり、食事の手伝い、介助をして下さっている。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	適宜電話での様子報告を行い、毎月たよりや一筆箋による報告を行っている。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	日々、家族様の意向をうかがう努力をしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	必要な時は行っている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	ある程度は報告している。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会・行事への参加を促している。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	入居時や折に触れ面談時に話し合っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	来訪時には声かけし様子報告・意見交換をしている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	時間をかけて説明している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	契約時・退去検討必要時には納得のいく説明をしている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	説明・同意を得ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	理解を得、設立に至っている。	/	○	/	自治会には参加していないものの、近隣住民が事業所の敷地を通ることも多く、交流をしている。また、現在は新型コロナウイルス感染症対策で中止しているが、事業所には地域のお話ボランティアに来てもらい、利用者と交流している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	自治会には参加していないが、地域の活動へは参加しており、積極的に挨拶をしている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	理解はして頂いている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	花や野菜・果物などを届けて下さったりしている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	日頃から物(菜園の野菜など)を差し上げたり、野菜・果物・花などをもらったり、日常的な会話をしたりしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	田舎であり、リタイヤされた方などもそれぞれ用があり難しいようである。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	できるだけ地域資源を活用しようとしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	意識的な働きかけまではしていないが、普段に外出する中で関係は深まっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	ある。	x	/	○	運営推進会議は地域住民や家族など、毎回参加を得て開催している。会議では事業所での出来事や利用者の様子等を報告したり、地域の防災対策について意見をもらったりするなど、活発で有意義となっている。家族アンケート結果からも、会議に参加していない家族には会議開催の理解が十分に得られていないため、今後は会議録を家族に送付するなど、報告方法を工夫することを望みたい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	意見交換はしており、取り組みの報告もしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	テーマは特に決めていないが、時期折々の話をしている。次回の予定は参加メンバーの予定も勘案して決めている。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	いつでも見て頂けるよう、玄関に置いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関・各フロアに掲げている。入居当初には説明するが、あえて都度都度は説明していない。		△	◎	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	通常は取り組んでいる。				職員間では、「Thank youカード」を活用しており、日頃のちょっとした感謝の気持ちを伝えあうことで、良好な職員同士の関係性を維持することができている。事業所のホーム長は法人の事務長も兼任しており、日頃から職員の様子を細かく確認し、ストレスなどにも配慮しながら働きやすくなるよう努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	通常は交流している。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	適宜面接などを行っている。		○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	身体拘束と合わせ学習している。				虐待防止等は内部研修で、管理者等は職員に徹底して指導しており、日頃から職員は利用者寄り添って声をかけ、荒い口調やきつい言い回しにならないようにしている。職員に気になる様子が見られれば、管理者やユニットリーダーはすぐに声をかけるようにしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	日々の朝礼・申送りで行っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	充分意識し注意を払っている。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	シフト調整・適宜面接などを行っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	折々の研修などで理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	ミーティングや施設内研修など話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	弊害等を説明し身体拘束を行わないが為のリスクも理解して頂いている。				

愛媛県グループホームステラ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	◎	理解している。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	必要時には情報提供や相談に乗る。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	必要な時は上手く連携できるであろう体制ではある。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	救急救命講習を受講している。定期的ではないが受講後長期間になるものは再度受講している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告・ヒヤリハット提出し、即時対応を検討・改めてミーティングで話し合っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	日々の送り・ミーティングで検討している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルを作成しており、苦情に至らないようなもの、送りやミーティングで取り上げ対応を検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	速やかに対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	速やかに対応している。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	個々に日々の会話などから引き出すようにしている。			◎	日頃から、職員は利用者や家族と十分にコミュニケーションが取れており、要望などがあれば、直接話してもらっている。職員から要望が出された場合には、ホーム長の判断でしっかりとした対応をしてもらっており、職員から気づきやアイデアを積極的に発言できる風土ができています。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	作っており、入居時にはわかりやすく説明している。	◎		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	入居以降は窓口の案内はしていないが、何でも話しやすい雰囲気づくりに努めている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	直接声かけも行っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	日々行っている。			◎	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年一回は取り組んでいる。				今回の外部評価の自己評価については各ユニットで実施し、積極的に職員は取り組んでいる。時間をかけて職員が利用者へのサービス提供などしっかりと取り組んでいる内容は、家族や地域住民に十分に伝わっていない様子が感じられたため、今後は取組み状況の報告方法など、より一層の工夫することを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	評価表を記入するミーティングの議題にも取り込んでいる。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	運営推進会議・家族様に報告し意見をもらっている。	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	作成、周知している。				運営推進会議の中でも防災対策を話題に取り上げ、活発に意見交換ができています。、年2回、事業所では避難訓練を実施している。地域住民や家族との連携強化が築かれているため、事業所の避難訓練(一緒に参加してもらうなど、取組みの事柄について理解が得られるよう、伝達方法を検討することを望みたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年二回は行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	行なっている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	近所の方のには参加できる時はしてもらっている。	×	△	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	本部との連携は出来ている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	例年は介護教室・サポーター講座を行って。				母体法人の施設に、居宅介護支援事業所があることから、事業所に直接相談に来られる地域住民は少ない。母体施設と上手く協働して役割分担をするなど、これからも法人・事業所として、地域のケア拠点の機能を果たしていけるよう取り組んでいる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	利用希望でない方の相談にも応じている。		×	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	行なっていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	行っている。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 10 月 13 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 18名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3890200037
事業所名	グループホームステラ
(ユニット名)	楓
記入者(管理者)	
氏名	吉井 恵美子
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 29 日

<p>【事業所理念】</p> <p>凡事徹底</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>介護記録について 利用者の様子・気づき・アイデアについての記録が十分でない。 →「もう少し記録に落とす」を目標とした。 →やはり現場の介護におもきが置かれ記録は十分ではないが、申し送りなどはきちんとできている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は周辺に緑が多く、自然豊かな環境の中に立地している。ホーム長と管理者を中心に、利用者に寄り添う支援を最優先にして、利用者主体のケアを職員が一丸となって実践している。事業所では、利用者の生活リズムに合わせて過ごせるよう、朝遅く起きる習慣のある利用者には朝食を確保してゆっくと希望の時間帯に食べてもらったり、好きな時に入浴してもらったりするなど、柔軟に対応している。現在は新型コロナウイルス感染症対策のため、家族との面会は窓越しで行ったり、タブレット端末を活用したりするなどの工夫している。コロナ禍においても、日課となっている散歩や薬師堂の参拝、ドライブなども継続し、利用者が日々穏やかに楽しく過ごせるよう支援している。訪問調査日には、自動車の往来も少ない安全な散歩道を、のんびりと利用者と一緒に楽しみながら歩いている様子を見ることができた。また、職員同士コミュニケーションがしっかりと取れており、お互いに注意し合いながら協力し合う風土ができている。</p>
----------------------------	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	普段の生活の中で折に触れ会話などから思いを把握するようにしている。	◎	/	◎	職員は利用者一人ひとりに寄り添い、しっかりと話を聞くことができている。日頃から、職員は利用者の意向が把握できることを意識して支援している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	家族・友人などからの情報などを、日々の申し送りや、毎月のミーティングなどで検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面談や面会時には世間話などをつつ、思いを伺い話している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	センター方式などを利用し、個別カンファレンスなどを記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	いつも本人の思いを確認する努力をしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	面会時には世間話などをつつ、探るようしている。センター方式などから把握している。	/	/	◎	職員は利用者や家族のほか、面会に訪れた友人等から、これまでの暮らしや若い頃の話などを聞き取るようにしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	折々に、申し送りノートに一覧を作ったり、日々の会話の中で把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	申し送りや普段の会話のなかで把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	◎	「なぜ？」をいつも考えるようにしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	スタッフは一人一人の過ごし方を把握しており、日々の変化についても日報や申し送りにて把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	カンファレンス時には独自のアセスメントシートにより「私の願いや支援してほしいこと」を検討している。その他朝礼・ミーティングなどで検討している。	/	/	◎	事業所では各利用者の担当職員を決め、日々の申し送りや各ユニットのミーティングの際には担当職員が中心となり、利用者一人ひとりの情報共有や検討をしている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	本人・家族様などからの情報をふまえて検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	独自のアセスメントシートを活用しカンファレンスを行い課題を抽出している	/	/	/	

愛媛県グループホームステラ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	家族様の意向が主になることもあるが、日頃から本人の思いや意向を探りそれを反映するようにしている。	/	/	/	各ユニットで実施するミーティングでは、介護計画についても検討している。各利用者の担当職員から、利用者の様子やサービスの実施状況を報告を聞いて検討し、家族の意向を盛り込んで、計画作成担当者が介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	折々、一堂に会することはなかなか難しいが、日々の会話や面会や電話連絡などの際ご意見を伺ったりしたことをもとに独自のアセスメントシートに落とし込みカンファレンスを行っている。	◎	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	慣れ親しんだ暮らしを提供する努力はのはは当たり前なので特に取り上げてはいない。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族様には出来る範囲での協力をお願いしている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	スタッフ皆で話し合い計画を作成しているので、理解できている。	/	/	○	職員は、利用者一人ひとりの介護計画の内容を十分に把握しており、計画に沿った支援ができています。利用者に寄り添う支援を重視しており、記録は必要最低限の記載となっているが、別途に各利用者の個別ファイルが用意され、担当職員等が日々の利用者の暮らしぶりや様子が分かるように記載されている。また、職員の気づきについては、申し送りノートなどへ記録を残し、活用されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	都度都度の記録し職員間で共有は出来ている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	記録できるような様式にはなっている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	介護記録に落とし込みを行い、情報を共有している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	行っている。	/	/	○	利用者の状態に大きな変化がない場合は、6か月に1回介護計画の見直しをしている。変化のある場合には、その都度職員で話し合って検討を重ね、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	定時を待たず、即時対応している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化に合わせて、随時見直しをしている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	定時の会議は開催しているが、緊急案件については出勤のメンバーなどで対応を検討している。	/	/	◎	各ユニットのミーティング内容は会議録にまとめられ、職員に回覧して共有できている。重要事項については申し送りノートにも記載され、職員は確認後にサインをするなど、伝達漏れのないようにしている。また、管理者は口頭でも伝達している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	しっかり意見交換のできる雰囲気づくりを行っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	工夫している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議記録・申し送り(ノート・口頭)で伝える。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	ミーティング・申し送りノート・月間スケジュールの活用	/	/	◎	伝達事項は申し送りノートに記載されている。職員は、出勤後にまず申し送りノートを確認することとなっている。情報共有に漏れのないよう管理者が、日々口頭でも職員に声をかけて留意している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	ミーティング・申し送りノート・月間スケジュールの活用	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	可能な方には向うが、意思を表出できない方は想像でし努力している。。	/	/	/	利用者の状況に合わせて、可能な範囲で利用者を選択してもらえる場面を作っている。管理者等は、職員に利用者が選択した判断を尊重した支援ができることを徹底している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	できる限り行っている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	できる限り行っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	できる限りそれぞれのペースを大事にしている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	出来るだけそばに寄り添い引き出すよう努力してる。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	できるだけつかむよう努力している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	いつも「尊厳」とはということを意識しつつ向き合っている。	/	◎	◎	入職後の内部研修で、管理者等は、新入職員に利用者を敬う姿勢やプライバシーへの配慮について、しっかりと指導している。日々の支援の中でも、利用者への言葉かけや居室への出入りなど、先輩職員が手本となり、利用者に配慮された支援ができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	◎	配慮している。研修も行い接遇を重視したケアを行っている。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	配慮しながら介助を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	声かけをして入室している。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	理解している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	家事仕事などをして頂いたりする際などいろいろな場面でいろいろ、教えていただいております。	/	/	/	利用者同士のトラブルは、職員が間に入ったり、利用者に場所を移動して気分転換してもらったりするなど、様々な工夫をして対応している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	よく理解しており、日々考えながら対応している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	細かなことまでしっかり目配りし、取り上げ、話し合うことができています。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	どのスタッフも当座をうまく対応するすべを持っており、その後皆で解消するよう努めることができている。	/	/	/	

愛媛県グループホームステラ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	センター方式や本人や家族様、面会の方などにおうかがいしたりしてある程度は把握できている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	センター方式や本人や家族様、面会の方などにおうかがいしたりしてある程度は把握できている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	会いに出かけることは少ないが、知人友人の面会やお手紙はよくある。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	気持ちの良い挨拶、空気づくりに努めている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	時期・気候にもよることができるだけ屋外に出る時間を確保するようにしている。	○	○	◎	現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以前から比べると買い物などの外出できる機会は減っているが、毎日事業所周辺を散歩したり、日課となっている近くの薬師堂へ参拝したりできるよう、職員は継続した支援をしている。利用者はドライブ時に車窓からの景色を楽しんだり、家族と一緒に外出したりすることも多い。また、重度の利用者も一緒に車いすで散歩するなど、職員は楽しみながら外出できるように取り組んでいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	外出はしているが、コロナの影響のためボランティアなどの協力は得れてない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	車椅子利用の方も散歩などされている。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族や地域の協力は得てないが外出の支援をしている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	「なぜ？」をいつも考えるようにしている。	/	/	/	ほとんどの利用者は積極的に洗濯物を干したり、畳んだりするなど、一緒にできることを手伝っている。特に馴染みのある洗濯物などの家事の手伝いは、利用者に人気がある。階段には両側に手すりを取り付けられており、リハビリを兼ねて階段の昇り降りをするを日課としている利用者もいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	家事仕事・レク・口腔ケアなどで維持・向上を図っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	職員はいつも「今、できる事・できない事」を把握して支援している。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	センター方式や日々の会話の中で把握している。	/	/	/	事業所では基本的に、午前中に職員主導でレクリエーションを行い、午後に利用者が自由に過ごすことが日課となっている。歌や将棋、風船バレーなど、利用者の身体状況や好みにも配慮しながら、職員が午前中のレクリエーションを考え、楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	日々の生活の中で楽しみを感じられるよう工夫している。	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	◎	通常は地域にも出かけている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	好みを把握しており、基本的には本人に選んでもらっている。				職員は利用者に選択肢を示して着替える服を選んでもらったり、利用者の好みに配慮したりしながら、身だしなみやおしゃれの支援をしている。重度の利用者にも、可能な限り好みを尊重できるよう、以前利用者自身で選択できていた頃の様子を思い出しながら、職員同士で相談して選択している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	髪型については家族様の意見も反映されている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	好みであらうものを選んでいる。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	日々の予定を意識して一緒に選んだりしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	いつも素敵にられるよう気配りしている。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	馴染みのところをお勧めするが、家族様あまり望まれない。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	以前から好んでいた服装を着れるよう支援している。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	ミーティングやその都度理解を図っている。				朝食と昼食は法人の栄養士が作成した献立を、近隣にある母体法人の施設で調理されたものが選ばれ、利用者に提供している。夕食は利用者や相談しながら事業所で職員が献立を決めており、食材を職員と一緒に買い出しに行ったり、調理を手伝ったりして夕食を食べることは、利用者にとって楽しみの一つになっている。食器は事業所の陶器の物を使用し、箸などは利用者の使い勝手や好みで、自由に持ってきてもらい使用している。朝食と昼食は栄養士が栄養面などを考えた食事となっているため、事業所内で調理する夕食はバランスにはこだわらず、職員は利用者が好みのメニューなどを楽しく食べられることを重視している。現在は新型コロナウイルス感染症対策のため、一時的に職員と一緒に食事を摂っていないが、利用者のそばに寄り添いながら支援している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	通常は買い物に出かけ、下ごしらえ、後片付けなどは積極的にかかわっていただいている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	通常は買い物を含め、できることをしていただくことで、達成感につながっていると思う。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	アセスメント等で把握できている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	アレルギーでなくとも嫌いなものはできるだけ提供せず、おやつなどもみな同じではなく、好みのものなども提供している。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	病院での指示以外は安易にミキサー食などにはしていない。歯がないなどの方には状況にあった食事を提供している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	馴染みのものをお持ちいただくようお願いしている。白内障の方には恋色のお茶碗だったり、使いやすいもので提供している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	△	コロナ禍であり、一緒に食事はしていない。その人に合った食事摂取ができるよう声掛け・介助している。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	ゆっくり会話をしながら食事をすすめている。		◎	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	好みのものなどを提供し水分摂取量を確保しているが、カロリーなどについてはそれほど気にしていない。(好きなものを食べさせてほしい、という思いの家族様がほとんどである。)				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	かなり工夫している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	朝食・昼食については本部の栄養士が献立をたて、調理したものが届いている。夕食については(楽しみの食事)ととらえている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	適宜の消毒など、安全管理に努めている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	必要であれば仕上げ磨きをしている。 適宜歯科往診を受けている。	/	/	/	一日3回の食後には、職員は利用者へ声をかけ歯磨きをしている。介助が必要な利用者には、職員が支援している。痛みや腫れがあれば、職員は利用者の口腔内の様子を確認し、必要に応じて歯科医の受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	入居当初のアセスメントに続き、その都度把握している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診のあった方は医師からその方に合ったケアを教えてもらっている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後、声掛け・介助している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後声かけ・介助にて清潔の支援をしている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	不具合のある時は歯科医の受を勧めている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	よく理解しており、安易にパッド・紙パンツを使わないよう支援している。	/	/	/	日中に利用者は布パンツで過ごし、職員はトイレで排泄できることを基本として支援している。夜間のみ、紙パンツやおむつを使用している利用者もいるが、職員が根気よく排泄支援していくことで、おむつから紙パンツに移行できたり、紙パンツから布パンツに移行できた事例もある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	よく理解しており、食事内容や形態・水分・運動など支援している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表にて把握し・排泄の兆候(特定の動作など)も把握して対応している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	トイレを基本とし、その人・その時の状態に合わせた支援をしている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	何事にも「なぜ？」を意識しながら、改善にむけ取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表などを利用し、個々に合わせたタイミングで声かけ等を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	オムツに関しては本人の好みは優先されていないが、他は相談しながら行っている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	日中は布パンツ、夜間不安な方には夜間のみ紙パンツを使用するなど、使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	食事内容や形態・水分・運動・マッサージ・入浴など支援している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	リスクが高い、スタッフの少ない時間帯はできないが、その他は利用者様の意向に沿った支援をしている。入浴の長さ、回数、温度については体調、バイタルを動案してできるだけ、好むようにしていただいている。	◎	/	◎	事業所の浴室は広く、職員が介助しやすくなっている。浴室や脱衣場などには床暖房やエアコンも完備され、快適な環境が整備されている。利用者は入りたい時に入浴することができ、職員は曜日や時間帯は決めず、可能な限り入浴してもらえる体制を整え、対応している。入浴が苦手な利用者には、無理強いはいしていないものの、利用者の清潔面も考え、平均すると週3回以上入浴することができている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	介助スタッフも希望に合わせている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	普段車椅子使用の方も安心して不安なく浴槽に入っていただける技術をもって対応している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	声かけの工夫をし、無理強いせず、納得して気持ちよく入浴できるようにしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタル測定・前夜の就寝状況当日の様子他動案し見極めている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	日々の申送り、睡眠チェック表にて把握している。	/	/	/	眠れない日には職員と一緒にリビングでのんびり過ごしてもらい、利用者のリズムに合わせて自由に過ごしてもらっている。事業所では夜に寝るべきと決めつけず、職員は利用者の体調や気分に合わせて支援できるような心がけている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の活動や光を浴びる事、軽い昼寝など工夫している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	スタッフ間・家族様・医師とも情報共有できる薬剤に頼らないように支援している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	好きな時間に休息がとれるよう声掛けなどしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	希望される時は電話し、かかってきたときは本人様にも話をされるよう支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	決めつけず、支援している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	電話を拒むような場面はない。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	返信の手紙であったり、届いた旨の連絡などをしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	理解を促しており、協力してくださっている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	よく理解できている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	通常は出かける機会を設けている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	特別働きかけは行っていないが、最近はどこでも認知症の理解があり、気兼ねなく買い物出来ている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	希望される方は持っている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	話している。、皆「本人のいいように」とのこと。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預り金規程などが用意されているが、殆んど利用はない。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	何事もできるだけ柔軟に対応している。	◎	/	○	事業所では、利用者の起床や食事の時間など決めてしまうのではなく、利用者の生活リズムに合わせて合わせるようにしており、職員は柔軟に対応できている。朝起きるのがゆっくりな利用者には、職員が朝食を取り置き、食べたい時間帯に食べられるよう支援している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	フェンスや門扉などはなく、日常から近所の方々も施設の敷地をとっている。	◎	◎	◎	家庭的な造りの玄関先にはベンチが置かれ、利用者等は自由に休憩できるようにになっている。玄関は明るく、出入りしやすい雰囲気となっている。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	外部の方からは「家庭的・普通の家みたい」と言われることが多い。	◎	◎	◎	共用空間はきちんと整頓され、掃除が行き届いている。廊下は広々としており、リビングは明るい。事業所内には利用者手作りの作品を飾ったり、生花を活けたりするなど、利用者や来訪者は、季節を感じるができる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	掃除は毎日及び適宜行っている。音・光・臭いについてはその都度対応している。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の行事や季節の食事、話題を提供している。					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	リビングでの席などは決めてしまわず、その時々で好きな所で過ごしている。廊下にも椅子を置いて好みに過ごしている。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	直接見えない工夫がしてある。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	お仏壇やソファ、机、枕など馴染みのもの、使い慣れたものを持ち込まれている。	◎		◎	居室の廊下側には障子の窓があり、とても家庭的で温かい雰囲気になっている。居室には、馴染みの物などを持ち込みことができ、仏壇や位牌、自宅で使用していた棚やクッションなどを持ってきている利用者もいる。利用者の居心地の良い空間となるよう工夫している。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	階段も両手で手すりを使用でき、フロアも各所に手すりが配置されている。エレベータも設置されている。浴室も車椅子使用の方(立位のとれない方)も浴槽に入り、入浴を楽しめるよう工夫されている。			◎	手すりなど、職員は利用者にとって必要性が感じられる場所にはすぐに設置してもらい、利用者が安全に自分で移動などができるようにしている。トイレには便所と大きく表記し、利用者が迷うことのないよう工夫されている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	異食のある方の手の届くところには異食に繋がるようなものは置かない。などその都度検討工夫している。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	裁縫道具などリスクの高いものは認知症の状態に合わせいつでも手の届くところには置いてない方もいるが、新聞や趣味の雑誌など大抵の生活雑貨は目につきやすいところに置かれている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	充分理解しているが、スタッフがいない外部からの不審者侵入予防の為、施設の玄関は内鍵がかかっている。(利用者様は安易にあげることができる。)	x	x	○	防犯のため玄関は施錠しているが、内側からは自由に鍵を開けて、外へ出ることができる。ユニットの出入口など建物内はすべて施錠しておらず、利用者は自由に行き来することができる。鍵をかけることの弊害について、職員は理解している。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	鍵を掛けてもいつでも自由に外に出ることができる。自由の大切さ・安全確保に対し入居時にはご理解いただけるよう話をしている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	x	日中玄関に鍵を掛けることは極普通なこととそれにより心理的圧迫をもたらせているとは考えられない。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居以前については本人・家族様のわかる範囲での情報となるが職員はしっかり把握できている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	介護記録以外でも日報・個別ケアチェック表にてわかりやすく記録されている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	協力病院やかかりつけ医ともいつでも連絡できる体制ができている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	それぞれ希望する医療機関を受診している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人・家族の希望の病院を受診している。受診時には要約を準備手渡している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	それぞれ受診結果を共有できるようお互い報告し合っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際にはサマリーを作成し情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	適宜病院の相談員とも連絡をとり、面会にも行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	できている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	介護員のそれなりの知識を持っており、週一回の本部看護師に的確に伝えることができている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医療機関にはいつでも連絡相談できる。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	介護職員もそれなりの医療知識もあり良好な医療との連携もとれている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	十分理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	チェック表や二人での確認などで防ぐ努力をしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日々申送り・話し合いが出来ている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	日頃かかわりの深い介護職からの情報を適宜家族・医療に情報提供している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時・状態の変化に応じ面談し、話し合いを行っている。	/	/	/	終末期の過ごし方や事業所での看取りについて、入居時に利用者や家族に説明するほか、状態の変化などがあつた場合には、主治医も交えて家族ともよく相談できる場を持っている。多くの家族は利用者が可能な限り事業所で過ごすことを希望されるものの、状態の変化や終末期には病院等に入院されている。事業所の近くには、24時間体制で訪問診療を行ってくれる医療機関がないこともあり、管理者は事業所での看取り支援は難しいと考えている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	その時期には関係者で話あっている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期の対応の実績がないがその時に応じ見極めを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居時には説明・同意を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	都度都度、医療・家族様と話し合いを行いながら進めている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	ゆっくり時間をとって話をしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	外部・施設内の研修にて学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそつた対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	季節性の物に関しては流行の前に改めた研修をしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	管理者は最新情報を入手しスタッフに周知している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	管理者は最新情報を入手しスタッフに周知している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員・来訪者は施設に入るときには検温・手洗いをしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	施設内のことも手伝って頂く事もある。	/	/	/	日頃から、職員は家族に利用者の様子を動画で撮影してメールで送信したり、写真を多く撮って郵送したりするなど、利用者の様子を丁寧に伝えている。法人の秋祭りには多くの家族が参加されるほか、事業所でのお寿司づくりや外出のイベントの際にも、家族に参加・協力を得ることができている。家族には利用者の様子などの報告は適切にできているが、事業所の新入職員の紹介など、事業所の運営上の事柄などの報告が十分には伝わっていないと感じられたため、事業所として現在送付している便りへの掲載を活用するなど、より効果的な伝達方法を検討し、家族に理解が得られる取組みをを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	通常はご家族と一緒に食事をとったりいつでも気軽に園内で過ごせるよう工夫している。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	一緒に散歩に行ったり下さったり、花を植えて下さったり、食事の手伝い、介助を下さっている。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	適宜電話での様子報告を行い、毎月たよりや一筆箋による報告を行っている。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	日々、家族様の意向をうかがう努力をしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	必要な時は行っている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	ある程度は報告している。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会・行事への参加を促している。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	入居時や折に触れ面談時に話し合っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	来訪時には声かけし様子報告・意見交換をしている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	時間をかけて説明している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	契約時・退去検討必要時には納得のいく説明をしている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	説明・同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	理解を得、設立に至っている。	/	○	/	自治会には参加していないものの、近隣住民が事業所の敷地を通ることも多く、交流をしている。また、現在は新型コロナウイルス感染症対策で中止しているが、事業所には地域のお話ボランティアに来てもらい、利用者と交流している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	自治会には参加していないが、地域の活動へは参加しており、積極的に挨拶をしている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	理解はして頂いている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	花や野菜・果物などを届けて下さったりしている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	日頃から物(菜園の野菜など)を差し上げたり、野菜・果物・花などをもらったり、日常的な会話をしたりしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	田舎であり、リタイヤされた方などもそれぞれ用があり難しいようである。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	できるだけ地域資源を活用しようとしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	意識的な働きかけまではしていないが、普段に外出する中で関係は深まっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	ある。	x	/	○	運営推進会議は地域住民や家族など、毎回参加を得て開催している。会議では事業所での出来事や利用者の様子等を報告したり、地域の防災対策について意見をもらったりするなど、活発で有意義となっている。家族アンケート結果からも、会議に参加していない家族には会議開催の理解が十分に得られていないため、今後は会議録を家族に送付するなど、報告方法を工夫することを望みたい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	意見交換はしており、取り組みの報告もしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	テーマは特に決めていないが、時期折々の話をしている。次回の予定は参加メンバーの予定も勘案して決めている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	いつでも見て頂けるよう、玄関に置いている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
IV.より良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	取り組んでいる。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関・各フロアに掲げている。入居当初には説明するが、あえて都度都度は説明していない。		△	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	通常は取り組んでいる。				職員間では、「Thank youカード」を活用しており、日頃のちょっとした感謝の気持ちを伝えあうことで、良好な職員同士の関係性を維持することができている。事業所のホーム長は法人の事務長も兼任しており、日頃から職員の様子を細かく確認し、ストレスなどにも配慮しながら働きやすくなるよう努めている。	
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	取り組んでいる。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	努めている。					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	通常は交流している。					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	適宜面接などを行っている。		○	○		◎
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	身体拘束と合わせ学習している。				虐待防止等は内部研修で、管理者等は職員に徹底して指導しており、日頃から職員は利用者寄り添って声をかけ、荒い口調やきつい言い回しにならないようにしている。職員に気になる様子が見られれば、管理者やユニットリーダーはすぐに声をかけるようにしている。	
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	日々の朝礼・申送りで行っている。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	充分意識し注意を払っている。					◎
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	シフト調整・適宜面接などを行っている。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	折々の研修などで理解している。					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	ミーティングや施設内研修など話し合っている。					
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	弊害等を説明し身体拘束を行わないが為のリスクも理解して頂いている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	◎	理解している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	必要時には情報提供や相談に乗る。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	必要な時は上手く連携できようという体制ではある。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	救急救命講習を受講している。定期的ではないが受講後長期間になるものは再度受講している。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告・ヒヤリハット提出し、即時対応を検討・改めてミーティングで話し合っている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	日々の送り・ミーティングで検討している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルを作成しており、苦情に至らないようなもの、送りやミーティングで取り上げ対応を検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	速やかに対応している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	速やかに対応している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	個々に日々の会話などから引き出すようにしている。	/	/	◎	日頃から、職員は利用者や家族と十分にコミュニケーションが取れており、要望などがあれば、直接話してもらっている。職員から要望が出された場合には、ホーム長の判断でしっかりと対応してもらっており、職員から気づきやアイデアを積極的に発言できる風土ができています。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	作っており、入居時にはわかりやすく説明している。	◎	/	◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	入居以降は窓口の案内はしていないが、何でも話しやすい雰囲気づくりに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	直接声かけも行っている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	日々行っている。	/	/	◎	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年一回は取り組んでいる。				今回の外部評価の自己評価については各ユニットで実施し、積極的に職員は取り組んでいる。時間をかけて職員が利用者へのサービス提供などしっかりと取り組んでいる内容は、家族や地域住民に十分に伝わっていない様子が感じられたため、今後は取組み状況の報告方法など、より一層の工夫することを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	評価表を記入するミーティングの議題にも取り込んでいる。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	運営推進会議・家族様に報告し意見をもらっている。	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	作成、周知している。				運営推進会議の中でも防災対策を話題に取り上げ、活発に意見交換ができています。、年2回、事業所では避難訓練を実施している。地域住民や家族との連携強化が築かれているため、事業所の避難訓練(一緒に参加してもらうなど、取組みの事柄について理解が得られるよう、伝達方法を検討することを望みたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年二回は行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	行なっている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	近所の方のには参加できる時はしてもらっている。	×	△	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	本部との連携は出来ている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	例年は介護教室・サポーター講座を行って。				母体法人の施設に、居宅介護支援事業所があることから、事業所に直接相談に来られる地域住民は少ない。母体施設と上手く協働して役割分担をするなど、これからも法人・事業所として、地域のケア拠点の機能を果たしていけるよう取り組んでいる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	利用希望でない方の相談にも応じている。		×	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	行なっていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	行っている。			○	